



「足りる？ 足りない？」

校長 永井 有司

向春の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

1年間で最も寒い時季です。本校でも、インフルエンザ等により学級閉鎖を余儀なくされたクラスもありましたが、2月も引き続き、健康にはご留意いただければと願っております。

さて、最近作家の三浦綾子氏の『泉への招待』という本を読んだ時のことです。あるエピソードが心に留まりました。それは以下のような内容です。



算数の問題として、雨が降っており3つのこうもりがさの絵と、4人の子の絵が描いてあった。

「足りるか、足りないか」

先生が言った。ある子が、

「足りる、足りる」

と答えた。

「こうもりと、子どもを線でつなぎなさい」

と言うと、その子は、2つのこうもり傘には、一人一人の子とつなぎ、あとの1つのこうもり傘には、二人の子をつないだ。

「1つの傘に2人入れれば足りる」

と言ったという。

1つの傘に2人入れたりするその子は、確かに算数の勉強としては、正確な答えはできなかったことになるかも知れない。

しかし、この子は、人生の算数には、誰よりも強いのではないか。

わたしたちは、

「あれも、足りん、これも、足りん」

と不平不満で暮らしているが、もしこのやさしさが、わたしたちの心にほんの少しでもあれば、

「足りる、足りる」

という奇蹟が続出するのではないか。……この子たちに学びたいものである。

『満ち足りた生活』とは一体何でしょうか。そして『優しさ』とは一体何でしょうか。思わず、自分の日々の生活を見つめ直してしまいました。「日本人は、物質的には豊かになったが、心はその分だけ貧しくなってしまった」とよく言われます。ニュースを見ていると、どうしてもそう思わざるを得ないことが多いと感じるのは私だけではないでしょう。物質的なものを求める余りに優しさが不足し、冷たい思いが生じたりや冷たい態度に出ってしまったらということがあるのだと思います。聖書には「受けるよりも、与える方が幸いである」という言葉がありますが、物質的な欲求と優しさとは対極にあるものなのかも知れません。そのような中で、“ほんのり”話を聞く機会は、幸いにして学校の中ではよくあることです。児童と直に接している教員は、毎日のように大なり小なりその“ほんのり”を感じていることと思います。帰りの会での「友達のいいところ探し」では、大人が気付かないような他の児童のよいところを指摘してくれる場合が多く、子どもの感性の鋭さに驚かされ、また感動を与えられます。昨今は、「ブラックだ」とか言われている学校現場ではありますが、まだまだ教員志望者が多くいるのもこの“ほんのり”を味わえる幸せがあるからかも知れません。子どもたちのためにも、学校がいつまでも魅力ある場であってほしいと心から願っております。

☆誇れる子どもたちです！……先日、嬉しい出来事がありました。2学期末のことですが、近隣の方からこんなお話をいただきました。「落ち葉の清掃をしていたら、6年生の男の子3人が手伝ってくれました。お礼を言いたいのですが、名前を言わずに行ってしまうので誰だか分からないので学校にお伝えにきました」担任の先生が学級で誰なのか確認したのですがすぐに特定はできました。けれども、本人たちにとってはごくごく普通の事だったようです。地域で子どもたちがご迷惑をおかけしてお叱りをいただくこともありますが、親切な行為を当たり前のように行うことのできる子どもたちがいることは何よりも嬉しいことですし、本当に誇らしい思いになります。喜びは共有させていただきたいので、“ほんのり”話はぜひ学校へお教えください。